

「あづまくだり」かながきげんだいゞやく②

仮名書き現代語訳をもとに、ノートに写した本文に傍線注釈をしなさい。
(仮名書きを漢字仮名交じり文に直すこと。『』内は自分で辞書を引き適切に現代語訳をすること。)

⑫どんどんすすんでいって、『』。

⑬うつのやまに『』、じぶんが『』、『』うえに、つた
やかえでがしげり、『』、『』とおもつて
と、しゆぎようざが（おとこたちいつこうに）あつた。

⑭「このように（さびしい）みちを、『』。」というひとを『』
『』、（きょうで）みしつたひとであつたよ。

⑮きょうとに、だれそれという（わたしのこゝしくおもう）ひとの
おてもとにと/orいことで、『』。

⑯するがのくに、『』うつのやまべの「うつ」というなのよう
に、『』ひとに『』。

⑰『』、『』、『』うつのやまべの「うつ」というなのよう
にゆき『』。

⑲そのふじさんは、『』、かたちはしおじりのようであつた。

⑳どんどんすんでいって、『』。

・そのかわのほとりに（いつこうのものが）『』、（たびにでてか
らのことやみやこのこと）おもいをはせると、とほうもなくとお
くに『』。

・『』といふのひとはみなみても『』。
うのひとびとはなんとなく『』、きょうにこいしくおもうひと
がいないわけでもない。

・ちょうどそのとき、『』、しきくらいのおおきその（とり）が、
『』。

・『』、『』、いつこうのひとはみなみても『』。
・『』、『』、『』、（みやこということばを）なとてつて
ことはよくしつているのだろうから）、さあ『』、わたしの『』
『』と

・とよんだ『』、ふねのなかのひとは『』。

⑯「らむ」と⑯「らむ」の違いを文法的に
説明する。

⑰「らむ」の用法

・「ぬ」の識別
・助詞「の」の用法

・「なむ」の結びはどうなつて
いる?

※接続助詞「ば」の用法をまとめてみよう。

文中で「座る」という意味の動詞を見つけて、次を埋めなさい。

	文中の動詞は……	
	語幹	行
	未然形	活用
	連用形	形
	終止形	
	連体形	
	已然形	
	命令形	